

第 22 回鈴鹿 F 1 日本グランプリ地域活性化協議会 議事要点録

日 時：平成 29 年 1 月 6 日（金）14：00～15：25

場 所：鈴鹿市役所 本館 12 階 1203 大会議室

出席者：36 名（別紙『組織構成及び出席一覧表』参照）

組織委員 27 名（全 37 名中 出席 15 名，代理 12 名，欠席 10 名）

事務局（鈴鹿市）9 名

内 容：以下のとおり（要旨）

1 あいさつ

【鈴鹿 F 1 日本グランプリ地域活性化協議会会長・鈴鹿市長 末松則子】

- ・今年度の F 1 日本グランプリは、3 年ぶりに 3 連休での開催となったことで、観戦し易い日程になるとともに、本市との関係が深いマクラーレン・ホンダが参戦 2 年目を迎え、国内外から期待が集まる中での大会となった。
- ・委員の皆様方のご協力により、大きなトラブルもなく無事に大会を終えることができ、心から感謝申し上げます。
- ・今年度の F 1 日本グランプリの観戦者の特徴として、海外からの観戦者が昨年より増加したと伺っている。
- ・鈴鹿で開催される F 1 日本グランプリは、チャレンジングでテクニカルな世界有数の国際レーシングコースを舞台に繰り広げられるレースとして、国内外から評価されており、世界中で「SUZUKA」の名が知れ渡っている。
- ・日本グランプリならではの F 1 ドライバーやチームと連動した取組の展開により、レース以外にも魅力あるものとなっていることが、海外からの観戦者の増加につながっているものと考えている。
- ・国際的なイベントである F 1 日本グランプリを、鈴鹿だけでなく、三重県、そして国の貴重な観光資源として、国内外からお越しになる観戦客に対して、より一層おもてなしの心でお出迎えしたいと考えていることから、引き続きご協力をお願い申し上げます。
- ・環境整備部会並びにおもてなし部会の取り組み結果について、各部会から報告をいただき、委員の皆様の御意見を賜りながら、来年度の事業計画づくりに繋げてまいりたい。
- ・来年度の F 1 日本グランプリに向け、本日の会議が有意義な意見交換の場となるよう、委員の皆様に御協力をお願い申し上げ、私からの冒頭の挨拶とさせていただきます。

2 報告事項

(1) 役員の変更について

【事務局 鈴鹿市地域資源活用課長・菅沼】

- ・資料1『役員の変更について』に基づき説明
- ・副会長の変更に伴う役員の変更の報告をさせていただく。
- ・鈴鹿F1日本グランプリ地域活性化協議会の役員には、会長、副会長、監事、それぞれ各1名に就任いただいております、副会長として長年に渡りご尽力いただいた山本忠之様が10月31日付けで、鈴鹿商工会議所の会頭をご勇退されたことから、後任となる田中彩子様へ副会長に就任いただく。

(2) 2016年F1日本グランプリ大会結果報告について

【株式会社モビリティランド取締役 鈴鹿サーキット総支配人・塩津氏】

- ・資料2『【鈴鹿サーキット全体レポート】2016F1協議会用資料』に基づき説明
- ・昨年は、多大なご協力をいただき感謝申し上げます。
- ・2016年のF1日本グランプリは、『THE 1 AND ONLY』というテーマを設定し、鈴鹿でしか味わえないF1グランプリ、世界から愛されるF1グランプリを目指し、取り組んだ。
- ・マクラーレン・ホンダの復帰2年目ということで、ホンダの入賞を期待していたが、残念ながら入賞することはできなかった。
- ・F1ドライバーとファンとが近いF1日本グランプリを目指して取り組んだことが特徴である。
- ・F1ブーム体験層とそのファミリーをターゲットとし、ドライバーやチームとコラボしたイベントに取り組んだ。
- ・3連休開催ということもあり、F1ウィークの6日(木)、10日(月)にもピットウォークやキッズミーティングなどのイベントを開催し、たくさんのお客様にご参加いただいた。
- ・地元小学生学童ピットウォークについては、7校460名の生徒に参加いただいた。
- ・観戦客8万人が決勝のゴールの際、チェッカーフラッグを振り、ドライバーをたたえるというF1日本グランプリならではの演出を行った。
- ・F1日本グランプリ全体の動員としては、残念ながら延べ動員数162,000人、金、土、日の3日間では145,000人と昨年より減少する結果となった。
- ・海外からの来場者については、昨年より増加し5,400人であった。インバウンド観光商品として認知いただくことができた。
- ・海外来場者を分析すると家族連れが多く、三重県での宿泊割合が昨年よりも増加したが、約7割が名古屋に宿泊している。

- ・海外来場者の困りごととしては、2015年と比較すると困りごとは減少したが、交通機関、会話、Wifi環境等に課題がある。
- ・2017年のF1日本グランプリの開催日程は、2016年同様、3連休での開催で、10月5日（木）から9日（月・祝）である。
- ・ドライバーラインナップの変更があり、メルセデスのN・ロズベルグ、マクラーレン・ホンダのJ・バトンが引退する。
- ・F1マシンのレギュレーションの変更があり、シーズン中にエンジンを改良できるようになるので、ホンダの成績向上を見込んでいる。
- ・2017年F1日本グランプリは、3連休での開催ということで、国内外から、多くの観戦客をお迎えしたい。また、海外からの来場者が増加傾向にあることから、海外におけるPRに力を入れていく。
- ・2017年F1日本グランプリのテーマを「THE 1 AND ONLY」とし、三重県出身の書道家の伊藤さんにデザインしていただいた。引き続き、世界唯一のF1グランプリとして、取り組んでいく。

(3) 2016年 鈴鹿F1日本グランプリ地域活性化協議会の取り組み結果について

①環境整備部会

【事務局 鈴鹿市地域資源活用課長・菅沼】

- ・環境整備部会の取組について、資料3『環境整備部会資料』に基づき、各事業者より報告を行う。

【国土交通省中部地方整備局三重河川国道事務所・中井氏】

- ・資料3『環境整備部会資料』P1～P6に基づき説明
- ・三重河川国道事務所が関わった施策については、昨年実施したものを引き続き実施した。
- ・A c P r o（アクプロ）については、今年度から実施主体を鈴鹿市に移管した。
- ・今年度より、W e b ページで方面別所要時間提供を実施した。
- ・三重河川国道事務所の主な取組としては、情報提供とシャトルバス専用レーンの運用である。
- ・国道情報板での情報発信については、F1開催時の1ヶ月前から注意喚起を行った。
- ・F1観戦者アンケートの結果によると約1割の方に評価いただいております、交通情報の収集手段として、約1割が利用した。
- ・会場内ブースでの帰宅時の交通情報の提供については、会場内にブースを設置し、帰宅の際の、鈴鹿ICまでの所要時間やシャトルバスの所要時間を提

供した。

- ・ F 1 観戦者アンケートの結果によると大変良い、良いが約 5 割と好評であった。
- ・ 中勢道路を道路規制し、シャトルバス専用レーンとして活用することで、シャトルバスを円滑に運行することができた。
- ・ F 1 観戦者アンケートの結果によると、とても満足、満足が 9 割と好評であった。
- ・ 「みち録」動画による情報提供については、レース終了後に、鈴鹿サーキット周辺の動画を配信した。
- ・ F 1 観戦者アンケートの結果によると、認知率は約 3 割、観戦者の約 1 割が利用し、約 8 割が次回利用の意向があることがわかった。
- ・ 方面別所用時間については、9 月 30 日から W E B 上で提供した。
- ・ 鈴鹿 magazine に掲載した帰宅時の所用時間実績に Q R コードを掲載し、W e b 上の詳細な情報を確認できるようにした。
- ・ W e b ページへのアクセス数については、決勝日以外の利用が少ない結果となり、事前の P R 等に力を入れていく。
- ・ F 1 開催時に、F 1 協議会が実施した交通円滑化施策の効果を検証するために、E T C 2.0 プロブ情報を分析すると、レース終了後の交通集中による混雑は、約 4 時間後に緩和し、平均旅行速度が通常休日並みとなった。
- ・ 今後も、ビッグデータ等を用いて、交通円滑化につなげていきたい。

【近畿日本鉄道・高橋氏】

- ・ 資料 3 『環境整備部会資料』 P7 に基づき説明
- ・ 白子駅定期外乗車人員は昨年より 4.8%増加し、2 万 7 千人であった。
- ・ I C 乗車券の利用については、2%増加した。
- ・ 昨年からの改善点の 1 つ目は、復路の導線の変更である。今年度、エスカレーターを下り専用とし、階段を上りのみとすることで、混雑を少なくすることができた。
- ・ 2 点目は、外国人の対応である。今年度は F 1 開催中の 3 日間、近鉄名古屋駅の駅コンシェルジュを白子駅に配置することで、窓口対応等の時間を減らし、混雑を緩和することができた。
- ・ 次年度については、クレジット決済である特急券のチケットレスサービスを P R し、混雑の緩和につなげたい。

【伊勢鉄道・富澤氏】

- ・ 資料 3 『環境整備部会資料』 P8～P10 に基づき説明
- ・ 鈴鹿サーキット稲生駅ができた 30 年前に、鈴鹿で F 1 日本グランプリが初開

催されたが、近年伊勢鉄道の利用者が減少してきている。

- ・ F 1 開催時は、通常の 8 倍の輸送力で運行した。
- ・ 3 日間で、乗降人員は 25,689 人、前年比 90.7%であった。
- ・ 方面別人員については、名古屋方面は例年どおり、津・伊勢方面は、前年比 85%であった。
- ・ 3 連休開催ということで、伊勢方面の利用者が多いと予想していたが、人員は伸びなかった。
- ・ 名古屋方面の利用者については、外国人利用者の増加もあり、名古屋近郊で宿泊される観戦者が多かったのではないかと考えている。
- ・ 列車の利用集中については、昨年よりも集中が分散し、遅い時間帯の利用が多かった。
- ・ 海外誘客については、多言語に対応した掲示文書を作成し、わかりやすい対応を心がけた。
- ・ 手荷物一時預かり所については、鈴鹿サーキット稲生駅から鈴鹿サーキットまで距離があることから、手荷物預かりのニーズがあり、佐川急便の協力のもと実施した。利用者は少なかったが、来年も利用したいという意見があったことから、来年も実施予定である。
- ・ 鈴鹿 F 1 写真展については、伊勢鉄道普通列車の車内にて実施したもので、河曲公民館サークルより、写真を提供いただいた。SNS 等で取り上げていただいたことで、PRにつながった。
- ・ F 1 協議会の協力のもと、鈴鹿サーキット稲生駅に仮設トイレを設置し、活用させていただいた。
- ・ 外国人観戦客が増加していることから、通訳ボランティアの方々には大変お世話になった。感謝申し上げる。

【三重交通・山本氏】

- ・ 資料 3『環境整備部会資料』P11 に基づき説明
- ・ シャトルバスの運行については、白子駅から鈴鹿サーキット間を 3 日間、運行した。
- ・ 中勢バイパスをシャトルバス専用レーンとして活用させていただき、片道約 20 分で運行することができた。
- ・ 白子駅での乗降については、駅前商店街組合様の協力のもと、臨時バス乗り場を設置し、複数の車両の同時出発をすることができた。
- ・ シャトルバス待機場所として、鈴鹿市体育館を確保いただいた。
- ・ 鈴鹿サーキットでの乗降については、8 番駐車場を臨時バス乗り場とし、F 1 決勝日に、66 台体制、最大 5 台の同時出発で対応した。
- ・ IC カードを導入したことで、運賃精算が円滑であった。

- ・中勢道路バイパスの稲生高校北交差点を規制いただいたことで、円滑な輸送ができた。
- ・輸送実績としては、3日間延べ35,000人であった。前年比11.7%の減少ということで、F1観戦者が減ったことが反映されている。
- ・輸送人員が減少した理由としては、F1と同日に津まつりが開催されたことが影響したのではないかと考えている。
- ・次年度の課題としては、引き続き中勢バイパスをシャトルバス専用レーンとして活用させていただくことと、シャトルバスの待機場所の確保である。
- ・名古屋駅から鈴鹿サーキットへの直通バスの輸送については、F1開催中の2日間運行し、利用者は前年比14%の増加であった。

【株式会社モビリティランド 鈴鹿サーキット・久田氏】

- ・資料3『環境整備部会資料』P12～P14に基づき説明
- ・中勢バイパス規制により、シャトルバスのスムーズな運行が実現した。
- ・交通規制により、観戦ツアーバスのスムーズな運行が実現した。
- ・鈴鹿サーキット周辺交差点の規制により、混雑が緩和した。
- ・反省点としては、交通規制開始時間が揃わなかった点である。
- ・アクセスマップについては、関係機関様に御協力いただき、AcPro（アクプロ）等の交通情報へのアプローチを見易く改善した。
- ・各駐車場から中勢バイパスへの経路、各ICへの案内を強化した。
- ・F1開催時の駐車台数としては27,546台の駐車があり、乗用車については、昨年より、3,000台減少した。
- ・公共交通機関の利用促進ということで、各関係機関に協力いただき、各方面から鈴鹿サーキットにお越しになるお客様にわかりやすい案内図をWEB上に掲載した。今後、空港からのアクセスルートの追加を検討している。
- ・外国人観戦者むけに、鈴鹿サーキット稲生駅から鈴鹿サーキットまで、英文表記の統一看板を設置した。
- ・皆様より多大な協力をいただき、感謝申し上げます。

【鈴鹿市中央消防署・加藤氏】

- ・資料3『環境整備部会資料』P15～P16に基づき説明
- ・F1開催期間中の8日（土）、9日（日）、延べ46人の職員を派遣した。
- ・救護者については、2日間通じて96名であった。
- ・救急車による搬送については、2日間通じて1名であった。

【事務局 鈴鹿市地域資源活用課長・菅沼】

- ・資料3『環境整備部会資料』P17～P33に基づき説明

- ・ 昨年からの課題であった近鉄四日市駅くすのきパーキングの利用台数について、F 1 グランプリ開催週の前週と比較して同数の実績であった。
- ・ 昨年の利用台数と比較すると 230 台の増加となり、昨年の課題を達成することができた。
- ・ F 1 開催時の 3 日間の入場者数は、昨年と比較して 20,000 人の減少となった。
- ・ 公共交通機関分担については、鉄道の利用者が 181 人の増加、バスの利用者が 867 人の減少となり、公共交通機関の分担割合が 33% という結果であった。
- ・ 自家用車での来場者が昨年より減少する結果となった。
- ・ 今年の F 1 日本グランプリは、自家用車での来場が減少したが、鈴鹿 IC の利用割合が増加する結果となった。
- ・ 鈴鹿 IC の利用時間については、昨年よりも分散する結果となった。
- ・ 鈴鹿 IC の利用割合を減少させることと、IC 利用時間の分散を次年度の課題とする。

②おもてなし部会

【事務局 鈴鹿市地域資源活用課・小野】

- ・ 資料 4 『おもてなし部会資料』に基づき報告。
- ・ 今年度の F 1 日本グランプリは、3 連休での開催となったことから、10 月 6 日（木）から 10 日（月）までを重点期間として設定し、おもてなしの取組を実施した。
- ・ 各事業を実施いただいた団体より報告を行う。

【三重県雇用経済部観光局・谷合氏】

- ・ 資料 4 『おもてなし部会資料』 P13～P14 に基づき説明
- ・ 昨年度に引き続き F 1 観戦時の県内宿泊を促進するため、三重県観光連盟と連携し「F 1 サポート宿泊施設」の取組を実施した。
- ・ 今年度は、津市、松阪市にある 3 軒の宿泊施設が参加し、10 月 7 日（金）から 10 日（月祝）までの 4 日間で、延べ 509 泊の利用があった。
- ・ サポート宿泊施設では、F 1 グッズが当たる抽選会や F 1 映像を流すなど施設ごとに独自の取組を実施し、ご宿泊いただいたお客様からも好評を得ている。
- ・ 今後、鈴鹿市観光協会において情報収集・発信されている『今からでも予約可能な宿泊施設紹介』と一体化した情報発信を行い、宿泊客の呼び込みを図ることで、本取組にご協力いただく施設数の増加と、さらなる県内宿泊の促進の取組を行っていく。
- ・ 昨年 6 月 30 日からスタートした「みえ食旅パスポート」を、F 1 に来ていただいた方々に、県内周遊を楽しんでいただくため、5 市 1 町の観光 P R ブース

において臨時発給した。

- ・ F 1 マシンをデザインした特別スタンプを押印し、3 日間で 503 冊のパスポートを発給した。
- ・ F 1 の観戦客は継続的に本県にお越しいただいている方が多く、こうした方々に、F 1 をはじめ三重の魅力をしっかりと伝えることで、何度でも三重にお越しいただき、県内周遊を楽しんでいただけるよう、引き続き努めいく。
- ・ 株式会社モビリティランド様の主催により、伊勢志摩サミットにおいて注目された本県の農林水産物や地酒、鈴鹿墨を使用した T シャツなどの物販・飲食エリアを展開する「MADE IN MIE」を初めて実施した。
- ・ 飲食 5 ブース、物販 8 ブースの計 13 事業者が出店し、3 日間で 553 万円の売り上げとなり、事業者・来場者ともに好評であった。
- ・ 今後も F 1 グランプリ地域活性化協議会の一員として、効果的な情報発信等に努めるとともに、関係者と連携しながら、日本を代表する国際的なイベントでもある F 1 日本グランプリを盛り上げていく。

【株式会社モビリティランド 鈴鹿サーキット・上甲氏】

- ・ 資料 4 『おもてなし部会資料』 P2 下段に基づき説明
- ・ 10 月 6 日（木）において、鈴鹿市の市内小学校 7 校、490 名の方にお越しいただき、F 1 チームと交流いただいた。
- ・ 当日の交流に留まらず、参加全校が F 1 チームと電子メールを中心に事前のコミュニケーションを行った。また、鈴鹿モータースポーツ友の会の協力により、事前学習としての出前授業を行い、F 1 知識の向上や当日の交流につなげた。
- ・ 昨年より 2 校増加したが、鈴鹿市内の小学校の参加にとどまっており、今後いかに全体の 5 市 1 町の方々に拡大していくのが課題であると考えている。

【鈴鹿商工会議所青年部・加藤氏】

- ・ 資料 4 『おもてなし部会資料』 P6 下段～P7 下段に基づき説明
- ・ 今年度、10 月 7 日（金）から 9 日（日）まで、F 1 応援イベントとしてメッセージオトドケ隊、くれないのチェッカーフラッグ、チェッカーの街！SUZUKA ボディペイント、鈴鹿で会いたい市場の 4 つの取組を実施した。
- ・ メッセージおとどけ隊では、観戦者の方からドライバーへの応援メッセージを記入いただいて、ドライバーへ届けさせていただいた。
- ・ くれないのチェッカーフラッグでは、観戦者の方に優勝ドライバーを予想していただいて、当たった方から抽選で F 1 決勝にて使用されたチェッカーフラッグを贈呈させていただいた。
- ・ SUZUKA ボディペイントは、好評であったことから昨年に引き続き実施

した。

- ・鈴鹿で会いたい市場では、鈴鹿ブランドに関するアンケートを実施して、抽選で鈴鹿ブランド商品をプレゼントさせていただいた。
- ・アンケートについての結果を添付していないが、結果をもとに次年度に活かしていきたい。
- ・10月10日に鈴鹿BOXKARTグランプリを鈴鹿市立図書館西側駐車場において行った。
- ・鈴鹿商工会議所が70周年記念イベントを行っており、そのイベントの一つとしても実施し、6,000人の動員があった。
- ・Fツイ割については、チケットを提示していただければ特典が得られるサービスを受けていただけるが、周知が行き届かなかったのか利用につながらなかった。周知が今後の課題だと感じている。

【鈴鹿モータースポーツ友の会・福山氏】

- ・資料4『おもてなし部会資料』P8下段～P9上段に基づき説明
- ・鈴鹿には古くから近鉄白子駅東にある勝速日神社があるが、モータースポーツに近い名前がついている神社ということで、F1観戦者に最良のドライバーの優勝祈願の絵馬を奉納していただく目的で取組を行っている。
- ・絵馬は優勝祈願で奉納していただくものではあるが、鈴鹿の名前やモータースポーツに関係深い勝速日が入っていることから、お土産としても購入いただいている。
- ・結果として、勝速日神社と観光協会が85枚、鈴鹿F1協議会ブースで69枚の合計154枚をお買い求めいただいた。
- ・F1日本GP観戦会の趣旨としては、F1観戦に全国からお越しになった皆様が、F1レースのみならず鈴鹿市に留まっていただき、鈴鹿の名物に舌鼓を打ち、F1を楽しみ、近隣の観光地を観光して帰っていただくことを目的として行っている。
- ・内容としては、私がツアーリーダーとなって、ツアーガイドを行うとともに、レースの解説をしながら皆様と観戦するものである。
- ・夕食を若松の魚長、宿泊は伊奈富神社の社務所、入浴は天名の湯を楽しんでいただいた。
- ・結果としては、8名の参加であり、事前に全国主要のモータースポーツ誌や地元新聞紙にて告知をさせていただいたが、まだまだ情報の告知が行き届いていないと感じている。
- ・おもてなしの取組全般において、告知に苦勞していることから、それぞれが告知を行うのではなく、F1協議会のホームページを充実させるよう、部会の際に申し入れをしたところである。

【鈴鹿市観光協会・西山氏】

- ・資料4『おもてなし部会資料』P9下段に基づき説明
- ・手荷物預かりを10月7日、8日、9日の3日間開設し、7時から21時30まで実施した。
- ・実績については、3日間で335個であった。

【事務局 鈴鹿市地域資源活用課・小野】

- ・事務局よりその他のイベントを報告させていただく。
- ・10月1日から9日まで、イオンモール鈴鹿にて熱田護写真展を開催した。写真展初日の1日には、「F1キックオフイベント2016」を開催し、F1開催機運の高まりを図った。
- ・10月6日から9日まで、イオンシネマ鈴鹿にてF1映画祭を開催した。今年度は「ウィークエンドチャンピオン～モンテカルロ1971～」を上映し、4日間で382名の動員があった。
- ・鈴鹿日本グランプリ地元前夜祭については、イオンモール鈴鹿様に協力いただき、10月7日にイオンモール鈴鹿第3駐車場にて地元前夜祭を開催した。
- ・ステージイベントとして、佐藤琢磨選手とピエール北川さんによるトークショーや元ヒステリックブルーのヴォーカルTamaさんによるスペシャルライブ、鈴鹿ストリートセッションなど、昨年よりも充実した内容で実施した。
- ・会場では、F1マシンの展示や物産販売やキッチンカー、親子向けのマルシェなどが出展し、多くの方にお楽しみいただいた。
- ・当日の来場は、昨年より1,500名の増加となる6,500名の方にご来場いただいた。
- ・その他のおもてなしイベントの説明は割愛させていただくが、様々なご意見を頂戴しており、次年度に生かしていく。

3 その他

【鈴鹿モータースポーツ友の会・福山氏】

- ・F1日本グランプリの観戦者数が減少した状況にある中で、個人的な見解ではあるが、いよいよ成熟期に入ったと感じており、現在の日本グランプリの観客数が、本当の意味での実数ではないかと思っている。
- ・近年のF1グランプリの開催地は、安全面の問題からランオフエリアもアスファルトになっており、アスファルトの広場の中に、コースを線で書いただけのようなところで開催されている。国際映像的には、このようなコースはきれいなものではない。一方鈴鹿は森の中を色とりどりのマシンが疾走する映像が流れ、綺麗なことから、一度は行ってみたいという思いになるほどヨーロッパの方々に根付いてきている。

- ・世界で21戦行われるF1の中で、映像では鈴鹿はきれいなグランプリの一つである。
- ・歴史を重ねる中で、世界的に鈴鹿での日本グランプリは地位を高めている。
- ・今後、鈴鹿F1協議会の中でもおもてなし部会の役割はますます重要になってくる。
- ・鈴鹿サーキットには、難しいとは思いますがぜひ働きかけていただいて、F1の国際映像の直前には三重県の名所や、フェルナンド・アロンソが椿大神社や伊勢神宮に参拝しているようなシーンが映り込むようなことができれば、鈴鹿の地でF1日本グランプリが開催される本当の意味での観光財産になるのではないかと。

【鈴鹿商工会議所青年部・加藤氏】

- ・次年度、鈴鹿商工会議所青年部が設立40周年を迎えることから記念事業を行っていく。
- ・その中でモータースポーツのまちとして、昨年10月にBOXKARTグランプリを実施したが、現時点で計画中にはあるが、今年の10月9日（月・祝）に40周年の記念事業をしていきたいと考えている。
- ・F1応援イベントと絡めながら、鈴鹿全体を活性化するとともに、県外から来たお客様にも楽しんでいただけるようなことを考えているので、ご理解とご支援をよろしくお願いしたい。

15 : 25 終了